

(別記様式)

令和5年度 京都府立城南菱創高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営計画）	前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点（短期経営計画）
<p>1 普通科と専門学科を併置した単位制高校として、斬新かつ先進的な教育を創造する。</p> <p>2 教育理念（自主創造、真理探究、社会貢献）に基づき、学校目標である「確かな進路実現」「充実した自主活動」を具現化し、『存在感ある学校』へと変容を遂げる。</p> <p>3 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりに邁進する。</p>	<p>開校15周年を迎え、城南菱創の良き「校風」と「伝統」が一層充実、発展した。</p> <p>※学校評価アンケートでは90%以上の生徒が高校生活に充実感・満足感を感じている。</p> <p>次の2つを重点課題とした。</p> <p>1 教職員の教育力の向上</p> <p>2 学校の魅力の充実</p>	<p>1 『単位制教育』の特色を十分に活用する。 ※全ての取組において、一層の「質の向上」を目指すとともに「こだわり」をもって指導し、生徒や保護者の満足度の高い、魅力ある教育活動を推進する。</p> <p>2 探究型学習やICT教育の充実に対応できる教科指導力、特に高い授業力を身につける。</p> <p>3 コロナ禍の3年間に中止や規模縮小された学校行事について、再び活性化できるように努める。</p> <p>4 国公立大学、難関私立大学への進学を含め、大学での高度な学問研究の実現に向けた進路指導を行う。</p> <p>5 気になる生徒についての情報を積極的に共有するなど、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>6 ホームページや学校説明会等で丁寧な広報活動を行い、中学校、中学生・保護者等に役立つ情報を提供する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	機能的な組織・運営の在り方の追求	① 生徒こそが、最も重要な外部評価者であることを理解しつつ、保護者アンケートや学校評議員からの御意見等の結果を分析して課題等を明確にし、分掌間の連携と教職員の共通理解のもと解決に努める。	B	B	学校経営目標を踏まえた目標設定や組織的な教育活動に一致して取り組むことができた。教科指導や学校行事、探究活動など様々な場面でのICTの活用による働き方の見直しにさらに取り組むことが課題として挙げられる。
		② 京都府教育委員会の策定した「教職員の働き方改革実行計画」をしっかりと受け止め、本校が目指す教育の創造と両立しながらどのように取り組むべきか検討し、実行する。	B	B	
		③ 各分掌・教科及び各個人が、学校経営計画を踏まえた目標を設定し、組織的に教育活動に取り組む。部長会議をはじめ、分掌会議や教科主任会議でしっかり検討、調整し、全教職員が共通理解できるよう努める。	A	A	

教科指導	教科指導力の向上	④ 学力向上は勿論のこと、多様な学習ニーズや興味関心に対応できるよう、教科指導力を向上させる。	A	A	A	特にデジタルツールを活用する場面が増加し、教科指導に繋げることができた。コロナ以前の形も意識しながら、新たな視点で課題設定にも取り組むことができた。教科を超えた効果的なICT活用についての情報共有や、それらを学校の特色化に繋げていく部分を今後より意識して質の高い教科指導を目指していく。
		⑤ 教科の特性を生かし、学校の特色化の推進に貢献できる取組をさらに充実・発展させる。	B			
		⑥ 教員が相互に積極的に授業参観、情報交換を行うことにより指導方法を工夫、改善し、質の高い教科指導を目指す。	A			
		⑦ 定期考査や模擬試験の分析を行い、学力の定着度を適宜検証する。	A			
	学習力の育成	⑧ 生徒自身がICT機器を活用し、学習や活動の記録をつけながら自ら成果や課題を見つけて自律的な学習ができるよう指導する。	B	B		
⑨ 生徒の学習面での課題を的確に把握し、適宜課題等を与えることによって興味・関心を引き出すとともに、知的好奇心を満足させるようきめ細かな指導・助言を行う。	A					
生徒指導	生活・学習規律の確保	⑩ 規範意識を高め、生徒自らが規律ある学校生活、安心・安全な学校生活を送れるよう指導する。特に、薬物乱用根絶、情報機器の正しい使い方や個人情報の保護については、継続的に指導を行う。	B	B	B	高校生を取り巻く様々な問題の中で特に薬物乱用防止やSNS上でのトラブルを理解する機会を設け、生徒一人ひとりの規範意識を高めながら指導にあたることができた。保護者とも丁寧に連携をとりながら定期的に面談を実施し、適切な指導につなげることができた。
		⑪ 頭髪や制服の着こなし等の身だしなみ、挨拶や言葉遣い等について生徒にその大切さを理解させ、品格ある高校生の育成を目指す。	B			
		⑫ 日々、生徒の小さな変化を見逃さないよう気を配り、迅速に報告・連絡・相談を行う。特に配慮が必要な生徒については、情報を教職員が共有し、理解を深めた上で指導する。	A			
	保護者との連携	⑬ 各種通信や面談、家庭訪問等により保護者との相互理解を促進する。特に課題を有する生徒の指導については、共通理解のもと取り組む。	A	A		
特別活動	学習と部活動との両立 学校行事の活性化	⑭ 部活動や学校行事に積極的に取り組み、健全な人間関係を構築できるよう指導する。「切替と集中」により限られた時間を有効活用し、常に質の向上を目指すよう指導する。	A	A	A	創華祭（文化の部、体育の部）、研修旅行、遠足、団体鑑賞についてはコロナ前の活動量や内容を取り戻しつつ充実したものとなった。

進路指導	可能性への挑戦を支援する進路指導の推進	⑮ 高大接続改革の目指すところを十分理解しながら城南菱創の進路指導の軸を明確にし、土曜講習や特別講座、進路講演会等を計画的、系統的、効率的に実施する。	A	A	A	講習や進路講演会については、計画通りに実施できた。担任団を中心に丁寧な面談を複数回行い、生徒の希望進路の把握と実現に向けた取組に繋げることができた。土曜講習の工夫、充実や1年生からの進路選択の指導をより各教員と協力して押し進めていく。
		⑯ 進路学習や個人面談をとおして進路意識の向上に努めるとともに、個別指導を充実させ、可能性への挑戦を支援する。	B			
		⑰ 実力テストへの積極的な参加を促し、結果を生徒自身が意識して活用するよう指導するとともに、進路指導部、学年部、教科が協力して早期対策をとる。	A			
		⑱ 大学入学共通テストに関する情報提供と対応を行い、昨年度の傾向を把握し指導につなげる。	A			
	数値目標が達成できるよう指導の在り方を検討する。	⑲ 「国公立大学+難関私立大学」への進学については、大学での高度な学問研究の実現に向けた指導を行う。	A			
人権 健康 安全 環境	人権意識の高揚を図る	⑳ 人権学習の内容を充実させ、一人一人が高い人権意識を持つ集団となるよう指導する。	B	B	B	救急連絡体制や急病、けが搬送先一覧、AED等について教職員全体で情報を共有できた。定期的に教育相談会議を実施し、気になる生徒について組織的に対応できる体制づくりを進めることができた。人権学習は、年間を通して各学年ともに多岐にわたるテーマで実施できた。
	気になる生徒への支援	㉑ 学校生活に困難を有する生徒への支援については、教育相談会議等を中心に組織的・継続的に対応する。	A	A		
		㉒ 学年部・教科担当者等と連携して生徒情報を共有し、個々の生徒の支援にあたる。	A			
	緊急時の適切な対応と連絡体制の確立	㉓ けがや体調不良の生徒に対する的確な判断や適切な行動がとれるよう体制を確立するとともに、保護者連絡や教員間連携を迅速に行う。引き続き感染症対策に努める。	A	A		
	安心・安全を第一とした施設・設備の充実	㉔ 日頃から教室の美化や整理整頓について細部にまで注意を払い、「いつ、誰に学校訪問していただいても恥ずかしくない」学習環境を生徒自らがつくるよう指導する。	B	B		
㉕ 安心・安全な学習環境、より快適な学校生活を目指して、危険箇所や衛生面の改善や、施設・設備の一層の充実を努める。		B				
広報	本校の魅力や求める生徒像等を様々な機会を活用して発信する。	㉖ 学校説明会や中学校訪問などの広報活動の充実により、本校の魅力を中学生や保護者に発信する。	A	A	A	学校説明会においては生徒のボランティアスタッフ参加を数年ぶりに再開し、より充実したものにすることができた。HPの更新頻度も昨年の1.5倍に増やすことができた。
	より効果的な広報活動を検討する。	㉗ ホームページやお知らせメールの活用方法を工夫し、適切な時期に適切な情報を提供できるように努める。	A			

学校関係者 評価委員会 による評価	学校評価アンケートを見ても日々の教育活動に対しては一定の成果が出ている。ICT、生成AIの活用等については状況に即した指導を継続的に 行っていく必要があり、デジタル化が加速する中で、より多くのことに対応する力をつけた生徒の育成にむけて学校、地域、大人が協働していくこ とが重要であるとする。生徒の安全、安心につながる情報リテラシー等の様々な場面での指導を期待する。
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	<ul style="list-style-type: none">• スクールミッションを受けて地域と一体となり、より特色ある満足度の高い魅力ある学校づくりに向けて、教科指導や学校行事、探究活動など 様々な場面でのICTの活用の加速と、ワークシェアによる働き方の改善を念頭に学習環境のさらなる充実に取り組む。• より深い学びと探究心の育成に取り組み、多様な進路の実現に向けて組織として取り組む。
-----------------------	---